



南町小だより

つよく かしく あたたく

平成30年5月31日

校長 福田 俊彦

思いやり宣言を全面に ふれあい月間

校長 福田 俊彦

校庭の木々の緑が美しく見えるのは、同じ緑ではなく、それぞれの持ち味を引き出している緑を見せているからでしょう。そして、互いの緑を引き立て合っているからでしょう。

さて、6月は今年度1回目の「ふれあい月間」です。南町小学校の学校生活では、自分らしさを互いの支え合いにつなげている子供の姿を見ることができます。「だいじょうぶ。」「がんばろう。」「ごめんね。」の声、子供相互に心を温かくさせています。人権尊重教育推進校である南町小学校は、長い校歴の中で、他の人と関わる場面をとらえ、自分の大切さとともに他の人の大切さを認められる子供を育てる指導を積み重ねてきました。そして、「思いやり宣言」もそのひとつです。平成28年度につくった宣言が、少しずつ内容を高めながら今につながっています。平成30年度の年間テーマとしての子供たちがめざす南町小学校は、「お互いに助け合い、ありがとうを届けられる学校」です。そのための思いやり宣言です。

南町小学校「思いやり宣言」

- ・誰に対しても、優しい言葉づかいにします。
- ・一人一人が感謝の気持ちを伝えます。
- ・相手の様子に気付いてはげましの声をかけたり、助けたりします。
- ・目を見て相手の話を聞き、応えます。
- ・お互いに気持ちよく元気なあいさつをします。
- ・友達だからこそ、まちがった行動を直し合います。



これは、平成28年度の代表委員会が作った「思いやり宣言」をもとに、平成29年度の代表委員会が作ったものです。子供たちがどのような学校にしたいか。そのためには一人一人がどのようなことを行っていくか。子供たちが話し合いという場を活用し、異年齢での関わり合いを深めつつ決めたものです。それゆえ価値があります。大人によって押しつけられた内容ではなく、子供たちの思いが言葉として表れていることが伝わってこないでしょうか。「させられる」でなく「する」です。子供が子供に伝えます。子供のひとつひとつの言葉が子供の心に浸みていきます。

「ふれあい月間」の6月は、この思いやり宣言を子供の、子供による、子供のための行動目標として、代表委員会から発信していきます。代表委員会の子供の声が、全校児童の子供の心にどのようにして響いていくのか。そして、「思いやり宣言」を自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる言動で満ちあふれる南町小学校を築いていく原動力としていきます。